

各部・校務分掌 重点目標及び自己評価一覧

【評定】 A：十分達成(100%程度) B：概ね達成(80%程度) C：少し達成(50%程度) D：まだ不十分(30%程度)

	年 度 当 初			年 度 末	評定
	重点目標	目標達成の具体的方策	評価基準・指標	年度末評価	
幼稚園部	<p>○保護者と共に一人一人に応じた「自分でできる」「自分から伝える」学びの支援の充実を図る。</p>	<p>【幼児への支援の充実】 ○幼児一人一人の特性の客観的な実態把握に努め、個に応じた支援法を探る。</p> <p>○幼児期における「知識・技能の基礎」「表現力・判断力・思考力」「学びに向かう力・意欲」等を育むため、日々の授業実践を基に、研究授業や公開授業を行いながら、授業改善に取り組む。</p> <p>【保護者支援や連携】 ○「親子活動」や「保護者研修」「保護者懇談・相談」の充実を図るため、関連機関との連携を図り、情報交換や収集、情報発信に取り組む。</p>	<p>○ケース会などを基に、個に応じた支援を工夫し、幼児の主体的な動きやコミュニケーションを導くことができたか。</p> <p>○教育要領の三つの観点を意識した授業づくりとその評価に取り組み、授業改善に向けた討議をクラス、または部内で行うことができたか。</p> <p>○学校での成果を家庭の場面でも生かすことができたか。</p> <p>○幼稚園部保護者懇談会や保護者研修会「オリーブ教室」を計画的に進め幼児期の子育てに必要な情報を提供したり、保護者間のネットワーク作りをしたりすることができたか。</p> <p>○希望者の相談を受け、適切な情報を提供することができたか。</p>	<p>【幼児への支援の充実】 ○5月に行った学校訪問時の研究授業の討議内容や委員会からの指導を基に、幼児期の子どもにとっての「深い学び」を「いきいきとした姿」が見られているときと捉え、取り組んできた。授業実践では、「遊び」の時間を取り上げ、継続して幼児の変容をビデオに撮り、三つの観点ごとにKJ法で、評価と課題の意見を出し合ったことで、個々の幼児の実態把握と必要な支援を工夫することができた。幼児の遊び込む姿から興味のある教材と安心できる環境の上で自由度を高める視点と各活動の「学びの連続性」をもった取組が必要であるという職員間の共通理解を図ることができた。</p> <p>○ケース会を職員からの提案で1事例行い、「気になる行動」から原因や個に応じた対応（支援）を出し合い、実践することができ、ABAの取組み方について再確認することもできた。</p> <p>【保護者支援や連携】 ○日常生活面だけでなく、校外学習や水泳教室などの「親子活動」でも休みの日の過ごし方につながることを意識して取り組んでいる。日頃の担任と保護者の密な情報交換に加え、部主事懇談会では、活動ごとの取組のねらいについて話をしたり、子ども達の様子の変化を映像で伝えたりした。担任との普段のやり取りや連絡帳などからも学校の取組を家庭で継続している様子が伺えた。</p> <p>○「オリーブ教室」を年5回実施することができた。それに加え、本校他学部保護者による座談会を2回実施し、保護者間の縦と横のつながりを作ることができた。また、講話のDVDや推薦本などを紹介し、ニーズに合った情報を提供することができた。</p> <p>○個別の部主事懇談は、希望者に今後の進路（就学・地域園交流）などについて行うことができた。</p> <p>○巡回相談（OT）を要請したり、デイサービス事業所との情報交換（2か所）の機会をもち、関係機関との連携をした。</p>	B

	年 度 当 初			年度末評価	評価
	重点目標	目標達成の具体的方策	評価基準・指標		
小学部	<p>児童一人一人の実態を把握し、児童の主体的な学びを育むための指導の充実を図る。</p>	<p>○児童の実態を踏まえ、一人一人のニーズに応じた指導の充実と、生活に生かすことができる力の育成を図る。</p> <p>○学年団を柱としたチームで授業研究に取り組み、各教科等や教科等を合わせた指導の充実を図る。</p> <p>○授業実践では、3つの観点「知識・技能」「表現力・判断力・思考力」「学びに向かう人間性・意欲」を踏まえた目標設定、支援の工夫、評価を行い、授業改善に取り組む。</p> <p>○研修では、教員の専門性を高めるために、研修内容の検討を行うとともに、グループで研修に取り組む。</p>	<p>○「太田ステージ評価法」をもとに、系統性を考えながら、指導内容や教材教具を工夫することができたか。</p> <p>○学年ごとに各教科等や各教科等を合わせた指導の年間計画の検討、実践に取り組むことができたか。</p> <p>○学年団で授業づくりについて、話し合いや討議を行い、チームとして取り組むことができたか。</p> <p>○授業実践で、3つの観点から目標を設定し、評価することができたか。</p> <p>○新学習指導要領について、研修を行うことができたか。</p> <p>○外部講師や校内での人材を活用して研修を行うことができたか。</p> <p>○研修等では、グループ討議のなかで、活発に意見交換を行うことができたか。</p>	<p>○児童全員に「太田ステージ評価」を実施し、今までの学習内容を踏まえて、実態に応じた教材教具を工夫しながら指導に当たることができた。</p> <p>○児童の実態に応じて、年間計画の中で重点をおく指導内容や目標について、学年団で検討しながら実践ができた。学部目標『子どもたちの「深い学び」をめざした授業改善』のもと、各学年で決めた目指す児童像を意識しながら授業実践ができた。</p> <p>○指導者全員で3つの観点を意識しながら単元の目標を考え、各学級で1つの授業研究を実践することができた。指導者のねらいがはっきりしたことが、支援の工夫につながってきている。</p> <p>○5～6人のグループ討議を行うことで意見を出しやすくなり、活発な話し合いを行うことができた。誰もが司会者や記録者になる可能性を作ったことで、若い教員が意見をまとめる機会をもつこともできた。</p>	B
中学部	<p>○生徒についての情報を共有し、一貫した支援や授業づくりを行う。必要な情報を保護者に提供する。</p>	<p>○部会等で生徒に関する情報を周知し、同じ視点で支援や授業作りを行う。</p> <p>○進路指導部や研究部、相談支援部などと連携して新しい情報を収集し、部会後の時間などを活用して周知する。随時保護者に提供する。</p> <p>○新学習指導要領を視野に入れた授業研究に取り組む。</p>	<p>○実態や適性を把握し、共通理解の下、一貫した指導ができたか。</p> <p>○保護者への必要な情報提供ができたか。</p> <p>○新学習指導要領についての研修を深めることができたか。</p>	<p>○学年団のなかでは、生徒個々の実態について適宜新しい情報を共有することができた。通学途上で生徒指導上の問題が多かったが、学年をまたがる生徒が関わる事案も多く、部全体での情報共有が遅れることもあった。</p> <p>○進路や福祉の活用等について保護者からの質問について、進路指導部や相談支援部から情報を収集し対応ができた。</p> <p>○教科、領域別にグループを編成し、新学習指導要領を視野に入れた学習指導計画を検討することができた。</p> <p>○現教では、新学習指導要領についての研修を行い、研究授業にも反映され始めている。</p>	B

	年 度 当 初			年 度 末	
	重点目標	目標達成の具体的方策	評価基準・指標	年度末評価	評定
高等部	<p>○自ら主体的に学ぼうとする心を育てる。</p>	<p>○各類型が取り組む3年間の学習内容を整理し、生徒が目的意識をもち、自分の役割を自覚して組めるように、履修内容を体系化し、事例検討をする。</p> <p>○各教科等の学習教材や参考となる指導記録をライブラリー化し、支援策を蓄積する</p>	<p>○各類型の3年間の指導内容を体系化し、生徒個々の履修状況を確認する。</p> <p>○各教科等の教材や指導方法を検証し、次年度の指導計画を作成する。</p>	<p>○教育課程に教科「道徳」を令和2年度（新1年生）から段階的に位置付けていくことを含めて、各類型ごとに指導内容の体系化についての方向付けができた。総合・技能類型の編成方法等については今後も検討が必要である。</p> <p>○各教科等の学習教材は、NAS（校内LAN）を活用して各類型・各教科ごとに蓄積していている。指導記録については、各学年・類型ごとに事例検討を通して、指導内容・方法等について研鑽を深めていている。</p>	B
教務部	<p>○期限内の完了を目標に各係の業務をスムーズに進める。</p> <p>○校内諸規程の改訂版を作成する。</p>	<p>○各作業のマニュアルを作成する。</p> <p>○記載内容について各部や各分掌に改訂版の原稿を依頼する。</p>	<p>○マニュアルを作成し、活用することで作業の効率化を図る。</p> <p>○校内諸規程を活用することで、全職員が効率的に担当の作業を進めることができる。</p>	<p>○各係でマニュアルを作成し、活用できつつある。今年度への引き継ぎの際に、データとともに整理された紙ベースのファイルも併せて活用したことにより、スムーズに進めることができた。</p> <p>○校内諸規程の改訂版の作成が計画よりもやや遅れたが、今年度内に作業を完了することができた。</p>	B
研究部	<p><現職教育> 新たな全校研究テーマについて、研究計画を立て、教員間で共通理解を図りながら、研究を推進する。</p> <p><図書> 図書室を整備し、幼児児童生徒が図書に親しみやすい環境を作る。</p>	<p>○3年間の研究計画を策定し、全体現教・部別現教で周知する。</p> <p>○研究テーマを基に、各部でそれぞれの課題に応じた現職教育を実施する。</p> <p>○研究テーマに関する便りを年3回発行する。</p> <p>○参観ウィーク後と年度末に職員アンケートを実施する。</p> <p><図書> ○幼児児童生徒のニーズに合った図書の購入、点検、受入、整理の作業を円滑に行う。</p> <p>○視聴覚教材の整理選別を行う。</p> <p>○図書の貸し出し規定や、図書室利用のマナーなどの広報活動をする。</p> <p>○年2回、校内読書週間を実施する。</p> <p>○幼児児童生徒のニーズに合った図書の購入、点検、受入、整理の作業を円滑に行う。</p> <p>○視聴覚教材の整理選別を行う。</p> <p>○図書の貸し出し規定や、図書室利用のマナーなどの広報活動をする。</p> <p>○年2回、校内読書週間を実施する。</p>	<p><現職教育> ○研究テーマについて、研究計画を策定し、各部での現職教育をスムーズに推進できたか。</p> <p>○便りの発行を通して、情報提供ができたか。</p> <p>○職員アンケートを基に、研究体制に関する成果と課題をまとめることができたか。</p> <p><図書> ○図書室として機能しやすいよう整備できたか。</p> <p>○図書室を正しく利用できたか。</p> <p>○校内読書週間を通して、読書活動の推進を図ることができたか。</p>	<p><現職教育> ○1年次はテーマに共通理解、2年次は授業改善、3年次はまとめという3か年計画を立てた。今年度は、テーマに関する職員の共通理解に重点を置いて、各部で研究に取り組むことができた。各部での報告を行った。</p> <p>○研究部便りは今年度発行できなかった。</p> <p>○参観ウィークの参観数は、昨年度の半分以下であった。今年度、参観者が参観しやすいように各部の日程を離して実施したが、参観ウィーク中であることの意識付けが不十分であった。</p> <p>○現職教育（参観ウィーク含む）についてのアンケートを2月に実施し分析した。</p> <p><図書> ○各部ごとのニーズに沿った図書の選定・購入を、年間を通じて計画的に行い、図書の充実を図ることができた。</p> <p>○年2回の読書週間を、今年度は1学期と2学期の終わりに1回ずつ実施した。学期の終わりの方に期間を設けたことで、その学期の読書活動のまとめとして位置付けることができた。</p> <p>○図書の貸し出し規定や、図書室利用のマナーなどのポスターを図書室内や校内に掲示して、広報活動を行ったが、まだ周知が十分でない。</p> <p>○学期に1度、図書の整理などを研究部で協力して行ったことで、図書室の整備をかなり大がかりに行うことができた。</p>	B

	年 度 当 初			年 度 末	
	重点目標	目標達成の具体的方策	評価基準・指標	年度末評価	評価
メディア教育部	<p>○本校ホームページを通じた情報発信。</p> <p>○情報セキュリティの徹底。</p> <p>○情報機器の適切な維持・管理</p> <p>○ICT教育の推進。</p>	<p>○メディア教育部内のホームページ担当者に向けて、ホームページの更新方法やアップロード方法について研修を行う。また、年度当初に詳細な更新計画を立案して、メディア教育係以外の更新担当者（各部・各校務分掌）にも周知することにより、確実に更新作業を行う。</p> <p>○情報セキュリティの実施手順の順守について全職員に定期的に注意喚起を行うとともに、状況に応じてセキュリティ対策の強化を実施する。</p> <p>○教員用パソコン等の情報機器を適切に管理する。また、管理を徹底するように全職員へ適宜、周知する。</p> <p>○情報機器・視聴覚機器の貸し出しルールを周知徹底する。</p> <p>○メディア教育だよりの発行や校内研修会を通じてICT教育の推進を図る。</p> <p>また、必要に応じてアプリを新規導入してiPadを活用する。</p>	<p>○本校ホームページの継続的更新。</p> <p>○情報セキュリティ実施手順の順守。状況に応じたセキュリティ対策の変更及び強化。</p> <p>○教員用パソコン・情報機器・視聴覚機器の適切な維持管理と活用。</p> <p>○iPad等ICT機器の効果的な実践事例を蓄積し、メディア教育だよりを通じて校内に向けて情報発信する。</p>	<p>○ホームページの記事を更新する際に著作物の無断使用が起きないように心掛けた。イラストや写真の無断使用だけでなく、著作権を有するキャラクターやロゴの映り込みに対しても注意を払って更新作業に取り組んだ。</p> <p>○情報セキュリティに関して県からの通知をもとに、職員に周知することができた。</p> <p>○NAS（校内LAN）の不調やネットワークの障害に対処することができた。</p> <p>○視聴覚機器と情報機器の管理に取り組むことができた。期日までに機器が返却されなかったり、機器の破損について報告が無かったりしたケースがあったため、厳重に管理できるように周知徹底した。</p> <p>○iPadの管理について適宜周知をした。要望が多かったアプリについては導入がほぼ終了して、授業等で利用できる環境を構築できた。また、iPad活用研修会を行って情報機器の活用を推進することができた。</p>	B
人権・同和教育部	<p>○幼児児童生徒への人権教育の充実</p> <p>○マスコットキャラクターを活用しての人権啓発スローガンの浸透</p> <p>○教職員・保護者研修の充実</p>	<p>○昨年度の年間指導目標を点検して、幼児児童生徒の実態に合っているかどうかを確認して、本年度の年間指導目標を作成し、実践する。</p> <p>○各部にマスコットキャラクターを積極的に活用するよう周知する。</p> <p>○他校からの情報収集や研修会での情報などを参考に、教職員・保護者研修の充実を図る。</p> <p>○保護者が参加しやすい人権課題を取り上げて、参加者の増大を図る。</p>	<p>○各部全てにおいて年間指導目標に沿った人権に関する授業の取り組みができたか。</p> <p>○マスコットキャラクターの活用機会が増えたか。</p> <p>○教職員・保護者研修会のアンケートにより評価する。</p>	<p>○各部とも計画にしたがって人権に関する行事や授業を実施できた。</p> <p>○マスコットキャラクターの着ぐるみを修繕し、全校朝礼で人権啓発劇を行った。</p> <p>○人権感覚チェック回収率は99%で、全員回収まであと一歩であった。保護者研修会は講師を招聘し講演会を行った。参加者が少なく残念であったが、保護者からは大変好評であった。</p>	B

	年 度 当 初			年 度 末	
	重点目標	目標達成の具体的方策	評価基準・指標	年度末評価	評価
生徒指導部	<p>○生徒が安心して学校生活を送れるよう、家庭や地域社会、警察、医療、福祉、などの関係機関と連携を図り、継続的に指導を行う。</p>	<p>○挨拶運動、服装等のマナー指導やルール遵守を徹底し、基本的な生活態度を育てる。 ○地域社会への奉仕活動や交流活動を通し、社会性、協調性を養う。 ○自主通学について実態を把握し、交通ルールやモラルを守って利用する態度を養う。</p>	<p>○生徒指導部だけでなくすべての職員と連携を密に生徒を指導することができたか。 ○問題行動の未然防止・早期指導に努めたか。 ○規範意識を体得できるように支援ができたか。</p>	<p>○捜索は今年度はほとんど無かった。問題行動を行った生徒には関係職員の協力のもとすぐに指導を行うことができ、問題解決や再犯の防止をすることができた。 ○高等部では性に関する問題行動が多かった。複数で教室内外など見回りをすることで未然防止になってきている。</p>	B
進路指導部	<p>○学校卒業後の進路状況と課題、職業教育での改善点について確認していく。</p>	<p>○保護者主催の「第17回施設サービス等の説明会」（6月下旬実施）に協力し、保護者・施設側双方のニーズや課題を紹介する。 ※保護者研修会の内容については、「進路ガイド」と「福祉用語集」の活用の仕方について説明する。 ○保護者進路研修会（9月実施）や、職員研修会（12月実施）を活用して、30年度の進路状況や問題点、今年度の進路開拓最新情報及び今後の展開等について紹介する。 ○進路指導部内での研修会（①職業教育※職場見学やキャリア教育含む②進路資料（福祉施設等）の整理を定期で行い、各部の部会等を通して情報の共有化を図る。新転任者を中心に本校の進路についての研修会を実施。 ○高等部の現場実習と校内実習、作業学習の設定が適切であるか検討する。 ○メディア教育部と連携して、HPでの「進路ガイド」閲覧システムを検討する。※PTA親の会と協力する。</p>	<p>○保護者代表者との定期的な意見交換を行うことができたか。 ○各部進路係を窓口とした職員間の定期的な意見交換を行うことができたか。 ○進路指導部内で、定期的な研修を通して、情報の共有化を図ることができたか。 ○各施設や関連機関と連携し、個々が納得できる進路設定を支援することができたか。</p>	<p>○保護者主催の福祉サービス事業所説明会や見学会は保護者のニーズに合わせて実施できた。 ○保護者研修会のアンケートの回答を「進路だより」の掲載した。 ○進路指導部内の研修会は日程調整が難しく、実施できなかった。 ○関係機関との連携は、十分にできている。現在の保護者のニーズを各事業所に伝えている。 ○メディア教育部と連携して、HPでの「進路ガイド」閲覧システムを整理している。</p>	B

	年 度 当 初			年 度 末	
	重点目標	目標達成の具体的方策	評価基準・指標	年度末評価	評価
特別活動部	<p>○幼児児童生徒が、主体性をもって生き生きと取り組めるように、学校行事をはじめとした各活動の計画・推進をする。</p> <p>○分掌の仕事の合理化をめざす。</p>	<p>○幼児児童生徒の特性や経験等を考慮し、各活動の目標・内容・実践方法等の計画を学習指導要領や前年度の反省をもとに、考えて実施する。</p> <p>○児童生徒会、学校行事、部活動等の係間の連携を充実させ合理化を検討する。</p> <p>○運動会・体育祭の内容検討及び計画・実施。</p> <p>○学校祭および前日祭の内容等を検討し、関係機関との連携調整を図りながら、企画・運営に取り組む。</p> <p>○児童生徒会を中心として新聞制作やボランティア活動に取り組むことで全校生の活動の場を増やし、連帯感をもつことができるようにする。</p> <p>○各活動が更に充実するように、その都度各活動の反省と課題を明確にして改善に取り組む。</p>	<p>○各活動の内容やねらいを明確にし、全職員で連携して実践することができたか。</p> <p>○幼児児童生徒にとって効果的な学習の場を作ることができたか。</p> <p>○学校行事に対する早めの対応ができたか。</p> <p>○企画、立案、反省等を次年度につなげることができたように、まとめることができたか。</p>	<p>○幼児児童生徒にとって効果的な学習の場を作るにあたり、目指す幼児児童生徒像を設定し、それに向けての教育活動を考えていった。学校祭をはじめとした学校行事や児童生徒会活動などの集団活動において様々なことを経験する機会を多くもつことができ、主体的に取り組む姿もいろいろな場面で見られた。</p> <p>○分掌の効率化に向けては、各部単位の活動との兼ね合いもあるため、少しずつ進めていっている。</p>	B
庶務部	<p>香川県特別支援学校PTA連絡協議会の当番校（事務局）として、学校とPTA役員との連携を図り、円滑に運営を行う。</p> <p>同窓会活動の内容や回数について検討する。</p>	<p>○香川県特別支援学校PTA連絡協議会の内容や経過を、学校やPTA役員へ周知し、準備や参加への協力体制を整える。</p> <p>○同窓会会員に活動内容のアンケートを取り、会員の意向を知り、次年度の活動計画を立てる。</p> <p>○他校の特別支援学校の同窓会の活動の情報を収集し、来年度の参考にす</p>	<p>○学校と保護者が連携、協力して、香川県特別支援学校PTA連絡協議会を円滑に開催できたか。</p> <p>○アンケートをもとに、次年度の活動計画を立てることができたか。</p>	<p>○香川県特別支援学校PTA連絡協議会を、6月に運営委員会、10月に全体会を実施した。本校の保護者と連絡を取り合うだけでなく、他校のPTA役員とも連携を取り、準備を進めることができ、有意義な会となった。</p> <p>○他校の同窓会の活動の情報を参考にバスハイキングや食事会のあり方について係で話し合い、方向性を決めることができた。</p>	A

	年 度 当 初			年 度 末	
	重点目標	目標達成の具体的方策	評価基準・指標	年度末評価	評価
環境整備部	<p>○校内環境の整備を行う。 (駐車場管理を含む)</p> <p>○地震や火事等に備えた防災訓練や体験型研修等を通して、防災や減災への意識を高める。</p> <p>○花の栽培などの活動を通して、校内の緑化を行う。</p> <p>○清掃活動や身近な場所・物等の整理・整頓を行い、校内美化に努める。</p>	<p>○安全点検日を行事予定表に記載し、校内の施設点検や修繕について呼びかける。 ○適宜な校内外の巡視を行い、校内の環境整備を行うことで、安全な環境を作る。</p> <p>○防災計画や学校安全マニュアルの配布や周知を行い、計画に沿って、防災訓練(火災, 地震)を実施する。 ○防災や減災に備える知識の広がりや危機管理意識の向上のために、研修時に外部講師の活用を行う。</p> <p>○幼児児童生徒が興味をもつ草花や野菜などを花壇に植栽し、灌水・草抜きなどを計画的に実施する。</p> <p>○学校行事及び校内掲示板での清掃計画の周知を行い、学校全体で清掃活動に取り組む。 ○5S(整理・整頓・掃除・清潔・しつけ)活動により、身近な教室や作業場所の整理整頓を行い使いやすい環境づくりに取り組む。</p>	<p>○幼児児童生徒が安全に学習活動に取り組める環境を整えられたか。</p> <p>○火災や地震を想定した防災訓練の実施において、幼児児童生徒の安全確保や避難誘導がスムーズにできたか。 ○職員研修や防災訓練を通して、防災や減災を意識して、火災や地震への対応や備えについて個々の危機管理意識を高められたか。</p> <p>○緑化計画に従って、校内の緑化や栽培活動に取り組み、栽培学習や緑化環境整備に取り組めたか。</p> <p>○清掃活動を通してみんなで校内の美化に努める意識を育てられたか。 ○5Sの意識をもち、校内の整理整頓に取り組めたか。</p>	<p>○器具の故障や破損個所の報告を受け、事務部と協議しながら修繕や購入を優先順位をつけて行い幼児児童生徒が安全に学習活動ができるように環境を整えることができた。 ○行事に伴う校内外の駐車場の周知を徹底したことで、保護者等の認知度も高くなり混乱は少なく安全な環境を整えられた。</p> <p>○中間評価後、第3回防災訓練(停電のため放送機器使用不可の状況下)を実施した。 ○初めての全校一斉防災訓練(緊急時引渡し)の計画・準備をし、保護者も参加して実施した。大きな混乱もなく引き渡しをすることができた。</p> <p>○校内緑化については、予算面等事務部と協議しながら進めた。 ○高等部園芸班との連携をもち、植栽を実施した。 ○学級園等の活用については、年間計画に従って進めることができた。</p> <p>○校内一斉作業の実施により各教室や特別教室、作業実習室が整理整頓され安全で使いやすくなった。校内美化への意識の高まりも見られる。</p>	A

	年 度 当 初			年 度 末	
	重点目標	目標達成の具体的方策	評価基準・指標	年度末評価	評価
相談支援部	<p><地域等支援> 地域の教員や保護者の相談に応じるとともに、特別支援教育の研修の機会を設け、地域のセンター的役割の充実を図る。</p> <p><校内支援> 校内支援として、研修会の充実や適切な情報提供を図るとともに、福祉とのより一層の連携を目指して、サービス担当者会議等への関わり方を検討する。</p> <p><教育支援計画> 個別の教育支援計画の作成と活用について検討する。</p>	<p><地域等支援> ○「学びと育ちの相談センター」を広報し、地域の保護者や教職員の相談に応じる。 ○交流会を実施し、地域の教職員の相談に応じたり、研修の機会を設けたりする。 ○就学前定期相談を実施し、保護者の相談に応じたり、研修会を実施したりする。 ○連携訪問・巡回相談を実施する。 ○公開講座を実施し、地域の教職員の相談に応じる。 ○教材教具展を実施し、指導・支援に役立つ情報を提供をする。</p> <p><校内支援> ○スクールカウンセラーによる本校の相談事例についてや教職員の対応の仕方等についての研修会を実施した。 ○教材教具展や公開講座、巡回・連携訪問報告会を実施し、校内の教職員の専門性向上につなげる。 ○福祉サービスの仕組みや役割についての講演会を実施したり、支援便り等で情報提供をしたりする。</p> <p><教育支援計画> ○県内の特別支援学校から情報を得て、個別の教育支援計画の内容を検討したり、活用方法について調査したりする。 ○個別の教育支援計画の作成・更新のタイムスケジュールの定着を図る。</p>	<p><地域等支援> ○相談内容やニーズに応じて適切に対応することができたか。 ○専門性を高めるための研修会や情報提供が提供できたか。 ○今年度の相談件数、相談内容について調査し把握することができたか。</p> <p><校内支援> ○カウンセリングを通して児童生徒、保護者、教職員の悩みを適切に把握し、対応することができたか。また、必要に応じてスクールカウンセラーと担任との面談を行うことができたか。 ○教材教具展や公開講座が幼児児童生徒の指導・支援につながるものであったか。アンケートで調査し把握することができたか。 ○福祉との連携について、講演会の実施や便りの周知が適切なものであったか。</p> <p><教育支援計画> ○個別の教育支援計画の作成、活用を検討する機会を設け、議論することができたか。</p>	<p><地域等支援> ○就学前定期相談、連携訪問など今年度計画していたセンター的機能の取組みは予定通り実施することができた。 ○就学以外の相談件数は少ないが、困難事例の相談が多く、複数の相談支援部員で対応に当たることが多かった。</p> <p><校内支援> ○カウンセリングについては、昨年度より時数が増えたこともあり、概ね要望に応えることができていた。また、スクールカウンセラーと担任との面談も行うこともできた。 ○公開講座、教材教具展については、アンケートから好評であったと考えられる。特に公開講座では、福祉との連携の重要性を多くの職員に啓発することができた。</p> <p><教育支援計画> ○昨年度に変更したタイムスケジュールについては、ほぼ予定通り運用できている。支援計画の活用には至っておらず、活用場面、記入例について次年度も検討をしていく。</p>	B

	年 度 当 初			年 度 末	
	重点目標	目標達成の具体的方策	評価基準・指標	年度末評価	評価
保健指導部	<p>健やかに成長するための基本的な生活習慣の確立をめざす。</p> <p>性に関する指導の充実と定着をはかる。</p> <p>適切な食物アレルギー対応策を検討する。</p>	<p>○食事や睡眠時間などの基本的な生活リズムの向上を目指し、日常での指導の充実を図る。</p> <p>○保護者の理解と協力を得ながら、基本的な生活習慣の定着を図る継続的な取り組みを進める。</p> <p>○それぞれの発達段階に応じた指導内容や教材を精選し、日常的継続的に指導する。</p> <p>○保護者の理解と協力を得ながら、性に関する授業や日常の支援に取り組む。</p> <p>○食物アレルギー対応について、保護者アンケートをもとに、学校や家庭が連携して、具体的で綿密な対応が取れるように努める。</p>	<p>○基本的な生活習慣の定着と基礎体力向上のため、継続的な日常での指導を行うことができたか。</p> <p>○保護者の理解と協力を得て、家庭において取り組みやすい環境を整えることができたか。</p> <p>○それぞれの発達段階に応じた指導を行うことができたか。</p> <p>○指導の充実を図るための教材の整理や提供ができたか。</p> <p>○適切な食物アレルギー対応が実施できたか。</p>	<p>○肥満指導においては十分な成果が出ず、保護者との話し合いの機会や個別指導の機会をもち、生活改善について啓発を引き続き行っていく。</p> <p>○性に関する授業は行ってはいるが、内容の深まりや、実践記録が不十分であるため、評価し難い。</p> <p>○産婦人科医を招いて、保護者研修会を行い、保護者の理解が深まった。</p> <p>○事故なく、適切なアレルギー対応ができた。</p>	B
寮務部	<p>家庭・学校との連携を図り、豊かな心や社会性を育てるとともに、個別の生活指導計画に基づき目標達成を目指す。</p>	<p>○個別の生活指導計画に基づき、目標を設定し、日々の生活指導や引き継ぎの中で有効な手立てについて、ケース会やグループ会で話し合い、適切な指導を行う。</p> <p>○個別の生活指導計画に基づいた内容について話し合うために、保護者会と保護者懇談会は保護者の参加しやすい日程で実施する。また、学級担任との情報交換会も行い、家庭・学校との連携を深める。</p> <p>○お互いを認め合う気持ち、好ましい男女交際、人との適切な距離感について、『ぶらす講座』の内容として伝えていく。</p> <p>○自尊感情や自ら発信できる力・自己決定できる力を自治会活動の支援や生活指導の場面で育てる。</p>	<p>○個々の課題に対する指導方法について指導員間の意思疎通が図れ、個別の生活指導計画の目標達成に向けた手立ては有効であったか。</p> <p>○保護者会・保護者懇談会・学級担任との情報交換会は計画通り実施できたか。</p> <p>○『ぶらす講座』を通して良好な人間関係が築けるようになってきたか。</p> <p>○生活指導や自治会活動への支援の中で、生徒が意見を言いやすい環境や、達成感を得られるような場面を設定することができたか。</p>	<p>○個別の指導計画の目標や手立ては学期毎に全員に各階に分かれて報告・共有したことで指導内容を深める時間が確保できた。</p> <p>○保護者会・保護者懇談会・学級担任との情報交換会は計画通り実施できた。三者で情報を共有することで信頼関係が図れ、個別の指導目標や手立ての内容を深められた。</p> <p>○『ぶらす講座』は計画通り実施できた。内容については十分な時間をとり事前検討をした。</p> <p>○自治会活動では寄宿舍生活を主体的に過ごすために舎生からアンケートを取り、意見を求めた。舎生の意見が実現できるように取り組めた。</p>	B